

10年後の佐用町のために 大切にしていきたいこと

企画防災課 まちづくり企画室

総合計画審議会 & 役場プロジェクトチームの会議開催の趣旨

今まで
以上に

みんなで考え、話し合ってつくる『みんなのための総合計画』

今日の取り組み内容

- 10年後の佐用町のために大切にしていきたいこと
- まちの将来像

についてみんなで分け隔てなく話し合いながら考えましょう！



次回

○ 私が、私たちが10年後の佐用町のためにできること

取組みの紹介

役場プロジェクトチームメンバー

所	属
総務課	情報政策課
企画防災課	税務課
住民課	健康福祉課
高齢介護課	農林振興課
商工観光課	建設課
上下水道課	上月支所
南光支所	三日月支所
教職課	生涯学習課

第1回 6/18

- 総合計画について共有
- まちの現状を共有（人口推移、高齢化率推移、公共施設等の維持管理費、財政状況）
- 各課の現状の課題／今後生じてくる課題のヒアリング結果共有
- 10年後を想像したときの出てきそうな課題について考える

第2回 11/11

- 改めて 縮充のまちづくりとは
- 自分が考える「縮充」について意見共有
- 縮充したまちになるために大切な行動や心掛けを考えてみる

～今後～

第3回 2月頃

- 行政の施策を協議

第4回 6月頃

- 総合戦略・人口ビジョンを盛り込む

第5回 9月頃

- 全体の確認



出てきた話題（抜粋）

- 施設維持は資金面よりも事業者の不足により困難になる
- 消防団員は今以上に災害時に出動が困難になる
- 利用者数減少による支所のあり方、体制
- 単身世帯増加による生活困窮者・ひきこもりの人などの課題が増加
- 介護人材の不足
- 農業の担い手、後継者不足
- 小・中学校のあり方

その他にも

1 4 4

の話題が上がってきました

総合計画審議会

所 属

人権擁護委員
 教育委員会
 高等学校
 消防団
 民生委員児童委員協議会
 社会福祉協議会
 社会福祉協議会
 若者農業者
 商工会
 観光協会
 農業委員
 平福地域づくり協議会
 三日月地域づくり協議会
 佐用連合自治会
 南光連合自治会
 三日月地域女性代表
 佐用地域若者代表
 上月地域若者代表
 公募委員

第1回 11/17

- 総合計画とは何かを共有
- 佐用町の現状共有（人口等の推移、課題）
- 縮充のまちづくりについて共有
- 私が思う「これって縮充？」を出し合い、意見交換

第2回 2/20

- 総合計画の内容協議

第3回 5月頃

- 基本計画素案共有・審議

第4回 7月頃

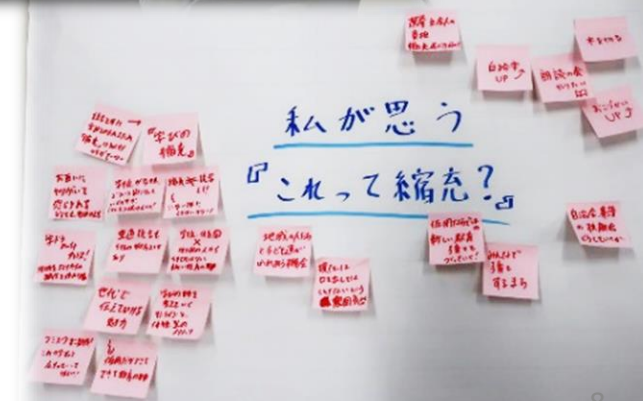
- 基本構想、計画、目標KPIを共有・審議

第5回 9月頃

- 基本構想、計画、目標KPIを確認

第6回 10月頃

- パブリックコメント意見共有・最終審議



私が思う「これって縮充？」 まとめ

【教育】

- ・学童は子どもたちと地域の人々が関係を作れる場
- ・小中一貫校という選択もありうる
(前段として小中のイベント統合から始めてみる)
- ・学校・保育園×地域の人たちの関わり
- ・オンラインと体験型の良いところを組み合わせた学びの形の変更
- ・コミスク
- ・部活動の地域移行(※子どもの移動手段が課題)
- ・小中一貫校をめざす⇒その先は中高連携
- ・佐用高校－中学校との連携
- ・佐用高校－佐用町との連携
- ・芸術鑑賞会を中高一緒に実施
- ・高校と予備校の連携
- ・今までにない新しい形の教育
- ・佐用だからこそできる教育の形
- ・佐用ならではの新しい教育、子育てづくり
- ・いろんな人が学校に関わること
- ・人数が少ないから統合ではなく、集まることで良くなる、
充実するということが大事
- ・教育の向上(学力の向上)
- ・佐用高校を残していくこと
- ・『学び』の縮充
- ・PTAの縮充

【子育て】

- ・みんなで子育てするまち
- ・朗読の会

【地域】

- ・ながら見守り(ウォーキングしながらなどの日常生活に＋見守り)
- ・特定行事のためにあった集会所の部屋を他の用途に有効活用
- ・自治会、集落の統廃合をどうしていくか
- ・ひまわりを大切にしていきたい
- ・高齢化で維持が困難なひまわりの栽培を高校生が手伝い
(※当たり前のことではないため、関係を継続していくためには工夫が必要)
- ・日用品等の移動販売車
- ・選挙立会人の負担

【交通】

- ・ライドシェアで免許返納後の移動手段を確保
- ・姫新線を残していくこと

【人材】

- ・佐用で育った人が佐用で活躍できる環境
- ・地元で頑張れる子を育てること

【多様性】

- ・女性消防団員の入団
- ・会議メンバーに女性の委員を増やす(※会議の時間帯等が重要 夜→昼間)

【交流】

- ・子どもも、地域の人もお互いにやりがいを感じられること
- ・地域の人たちと子どもたちがふれあう機会
- ・子どもへの声掛け
- ・声掛けから始まる人間関係
- ・世代で伝えていける魅力

【手法】

- ・話し合っていくことが重要
- ・何をするにもみんなに知ってもらう(PRする)ことが大切

【資源】

- ・天文台、ひまわり、ホルモン焼うどんなど佐用町の資源を最大限活用
- ・天文台あるのに最近星のPRが少ない
- ・SPRING-8は佐用にあるのにあまり知られていない
- ・天文台やSPRING-8、大学などとの連携

【私生活】

- ・野菜などのお裾分け
- ・自給率を上げる
- ・終活(自分がやるべきことを整理することから始まる)
- ・おこずかいUP↓

【その他】

- ・不自由がないこと
- ・縮充させることは統合させることという考えをしてはいけない
- ・副業(複業)
- ・金融店舗移動車＋αの役割を持たす
- ・金融業務＋αの業務(お金以外の相談など)
- ・木を切る

総合計画審議会 会長からの講評

○縮充の「縮」は人口が縮むという面だけでなく、
心的距離が縮まるというプラスの視点も含まれている

○縮充Bookの中には行政の視点が弱い



兵庫大学教授 田端和彦先生

佐用町の状況のおさらい


佐用町の状況


出てきた佐用町での課題

○面積 変わらない

○人口 減少 

○職員数 減少 

○公共施設
(維持管理費) 増加 

○水道
(維持管理費) 増加 

○町道
(維持管理費) 増加 

○財源 減少 

- ・地域コミュニティ維持困難
- ・医療などのサービス低下
- ・買い物困難
- ・交流機会の減少
- ・鳥獣被害の増加

- ・労働力の不足
- ・消費の低迷（企業活動低下）
- ・企業の撤退・倒産の増加
- ・就労先の減少
- ・地域行事や伝統芸能の消滅

- ・人口流出の加速
- ・少子高齢化の加速
- ・空き家の増加
- ・耕作放棄地の増加
- ・景観の悪化

- ・税収減少、財政悪化
- ・職員数減少し、行政機能が弱体化
- ・災害対応に支障
- ・インフラ（水道、道路、橋）の更新が困難
- ・交通サービスの維持困難
- ・介護人材の不足

安心・安全で幸せと思える暮らしをいかにして
守っていくかを考えなければならない

これからの
まちづくりの考え

これからの新たなまちづくりの考え

これからも

より心豊かで幸せと思える

佐用町がつづいていくために

どう取り組んでいくかを考えていく

より心豊かに幸せに暮らすために

積極的な取り組みや新たな考え方への転換や受け入れが大切



R5～

佐用町：縮充のまちづくり

【縮充】

将来を見据えて前向きに取り組むこと
(変えていく、受け入れていく)

縮充という言葉はつかっていないが、
将来を見据えより充実したまちにするための取り組みは大小みんなしてきている？

取り組み事例

- 町の合併
- 若者グループ活動応援事業
- 地域のかたが家庭科授業
- 海内地域づくり協議会の若者へのサポート
- 地域デイサービス（既存事業との複合）
- 気軽に集まれる場所の提供

これまで以上に多くのみんなが参加し、考え、取り組むことが重要

次期総合計画の仕立て

【コンセプト】

縮充のまちづくり

“小さくても 少なくても ころ豊かでしあわせ”

【大切にしたいポイント】

○実際に手に取って使える

○行政のためだけでなく、住民のためにもなる

みんなの総合計画

他市町の総合計画の 仕立て事例紹介

(杉岡先生より)

参考にしたい総合計画

(企画防災課 芳原より)

島根県海士町



22 1人でできること

- 24 01 歩いて暮らそう
- 26 02 天職を見つけよう
- 28 03 海士の味をうけつごう
- 30 04 もっと水を大切に!
- 32 05 もったいない市場
- 34 06 エネルギーを見直そう

36 コラム1

38 10人でできること

- 40 07 海士人宿につどおう
- 42 08 ガキ大将を育てよう
- 44 09 あまさん倶楽部
- 46 10 海士ワーキングホリデー事業
- 48 11 ワゴンショップ海士号
- 50 12 おさそい屋さんになろう

52 コラム2

54 100人でできること

- 56 13 ちいさな農のある暮らし
- 58 14 炭焼きクラブ「鎮竹林」
- 60 15 A M A 情報局を開局しよう
- 62 16 欲しいものは島でつくる
- 64 17 支えあって暮らそう
- 66 18 地域に「ただいま」を言おう
- 68 19 里山と里海をつくろう
- 70 20 みんなで学ぶ島のエコ

72 コラム3

74 1000人でできること

- 76 21 地域が支える学校づくり
- 78 22 魅力ある島前高校をつくろう
- 80 23 海士大学に入学しよう
- 82 24 海士まちづくり基金

84 提案をかたちにするために

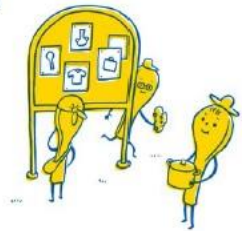
86 役場のリーダーと相談と支援の窓口

88 アイデアをかたちにする5つのステップ

90 海士町総合振興計画本編との対応表

92 この本ができるまで

96 海士町まちづくり提案書

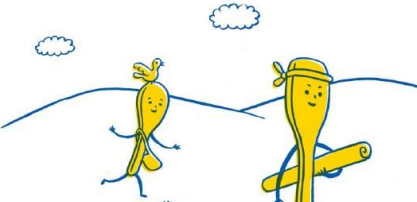


個人レベル～多人数レベルで取り組む内容を表現

01 クルマでは出会えない 人や時間をもう一度！ 歩いて暮らそう。

島に住む私たちは、近所にも車で行くほど、車に依存しています。車は便利な乗り物ですが、歩く習慣を失うことは、2つの問題につながります。それは、健康と環境です。

多くの生活習慣病の原因のひとつは運動不足。健康づくりのために、歩くことから始めてみませんか？自分のペースにあわせて、歩く時間、歩く日を決めたり、仲間との散歩や歩くイベントを企画してみるのも楽しいもので



1人でできること

16 海士町単位で考える 自給自足と地産地消。 欲しいものは島でつくる。



100人でできること

す。また、「行きはいいけど、帰りは疲れて歩けない」といった時は、バスを利用したり、ヒッチハイクができるようになると、歩く人も増えるかもしれません。

よく歩くことは、ガソリン代の節約にもなります。これからさらに高騰する可能性があるガソリン。温暖化をはじめとした地球環境悪化を防ぐためにも、エネルギーの節約は重要な課題です。

歩く暮らしをみんなですれば、見えていなかった風景を発見したり、人との出会いや交流も生まれます。ゆっくり流れる時間を持つこと。それは、毎日の暮らしを豊かにし、まちの雰囲気を変えることにもつながるのです。

役場の健康福祉課には、ウォーキングマップがあります。ぜひ活用してみてください。



07 趣味から広がる 出会いの場、 海士人宿につどおう。

海士人宿とは50年ほど前まで海士町にあった、若者の寄り合い所のようなところ。そこでは、人が出会い、明日の海士を熱く語ったといいます。現在海士町は、Uターンで移住する人も増え、顔は知っているけど話はしたことではないという人が増えているようです。その原因のひとつに、ふらっと立ち寄っておしゃべりする場所や、みんなが盛り上げられる場所がないことがありました。



10人でできること

そこで、現代版海士人宿をつくりたいと考えています。場所は、島内にある使われなくなった保育園などの空き施設。キーワードは「趣味」です。空いている場所で、自分の趣味を活かして、島内の交流を生み出すという作戦です。例えば、サッカー好きが集まるサッカー観戦会を計画したり、手芸が得意な人は、工房をつくって手芸教室を開いたり、料理上手が日替わりでカフェを運営してみたり……。予算をかけて新しい施設をつくるのではなく、あるもの(技)を持ち寄って、お年寄りから若者まで、誰もが楽しく過ごせる空間。それが海士人宿です。

まずは、みんなが使えるコピー機などの道具や設備を整える必要があるでしょう。そんな場所づくりから、多くの仲間に出会い、海士で暮らす楽しみが広がっていくように思います。こんなことしたい、あんなことしたいを持ち寄って、海士人宿を一緒につくりましょう。



21 地域と保護者と学校の 連携プレーが大切です。 地域を支える学校づくり。

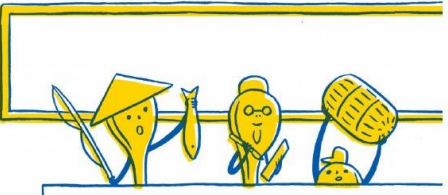
学力低下や体力低下が全国的な問題になっている昨今、海士町も例外ではありません。今まで教育や子育ては、学校や教育委員会にまかせきりしてきましたが、共働き家庭や島での子育てに不安を持つ親のために、もっと地域ができることがあるのではないかと考えました。

例えば、スポーツや部活、習い事などが保育園から高校まで一貫して続け

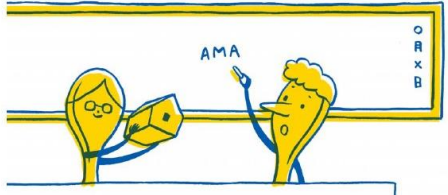
られるような体制の整備や、海や山、島の自然の中で存分に遊べる環境の提供、地域の中で生きる力を養えるよう、地域文化の継承や地域の手伝い、働く体験をする機会を増やすなど、学校単位ではできない横断的な支援が考えられます。

こうした活動をするためにも、保護者や地域、学校との連携を進めるための仕組みづくりが大切です。また、子育てが終わった世代にも、地域で子どもを育てるんだ、という意識を持ってもらうことも重要です。お年寄りに子どもとの接点を持ってもらうことは、お年寄りにとっても、生きがいにつながるかもしれません。

地域が変える学校づくり。島全体で子育てをすることで、海士町への愛着心も育てていきたいものです。



1000人でできること



ひとり～みんなでまちづくりに取り組むための表現

心地よさ 息づくまち 川西

～ジブンイロ叶う未来へ～

令和6年(2024年)4月ー令和14年(2032年)3月

第6次川西市総合計画



ジブンイロ
叶う未来へ



かわにし新時代へ

基本姿勢

私たちが大切にしたい思い ー 4 つの基本姿勢 ー

都市像の実現に向けて、私たちが何を大切にしようとしているか。

その思いを4つ示しています。

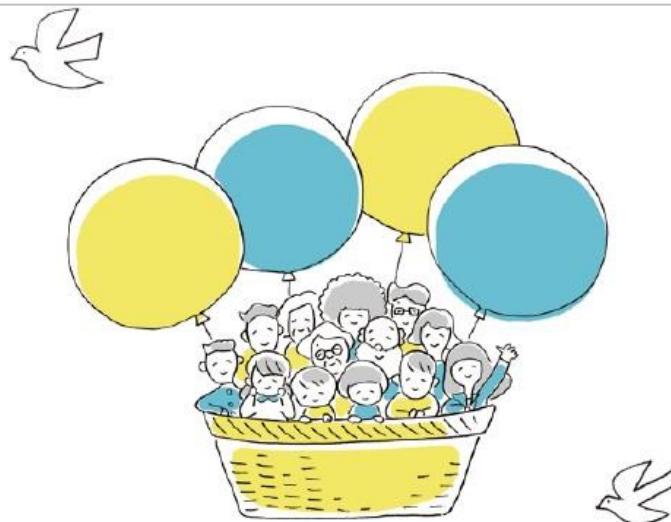
これらは、年齢や立場に関係なく、川西に関わるあらゆる人と共有しようとするものです。

まちは、一人ひとりの暮らしで形づくられています。

私たちは、年齢や立場はそれぞれ違いますが、縁あって同じまちに暮らしています。

川西で感じられる心地よさを次世代に引き継げるよう、

一緒に考え、取り組んでいきましょう。



I まず、「子どもの幸せ」から始めます。

子どもたちの笑顔は、世代を超えたにぎわいや活力を地域にもたらします。

私たちは、笑顔あふれる子どもの成長を通じて、

あらゆる市民が幸せを感じられるまちをめざします。



II 人に寄り添い、 お互いの個性を認め合います。

誰もが、地域の一員として誰かを支えたり、フォローできる役割を少しずつ持っています。

私たちは、各々のペースでまちに関わりながら互いを尊重し、

多様な個性を認め合えるまちをめざします。

III 未来に責任を持ち、 持続可能な仕組みをつくります。

このまちを、未来の子どもたちにしっかりと引き継ぐ責任が私たちにはあります。

私たちは、人口減少社会や自然災害等を見据え、既存のまちのあり方を柔軟に見直し、
持続可能なまちをめざします。

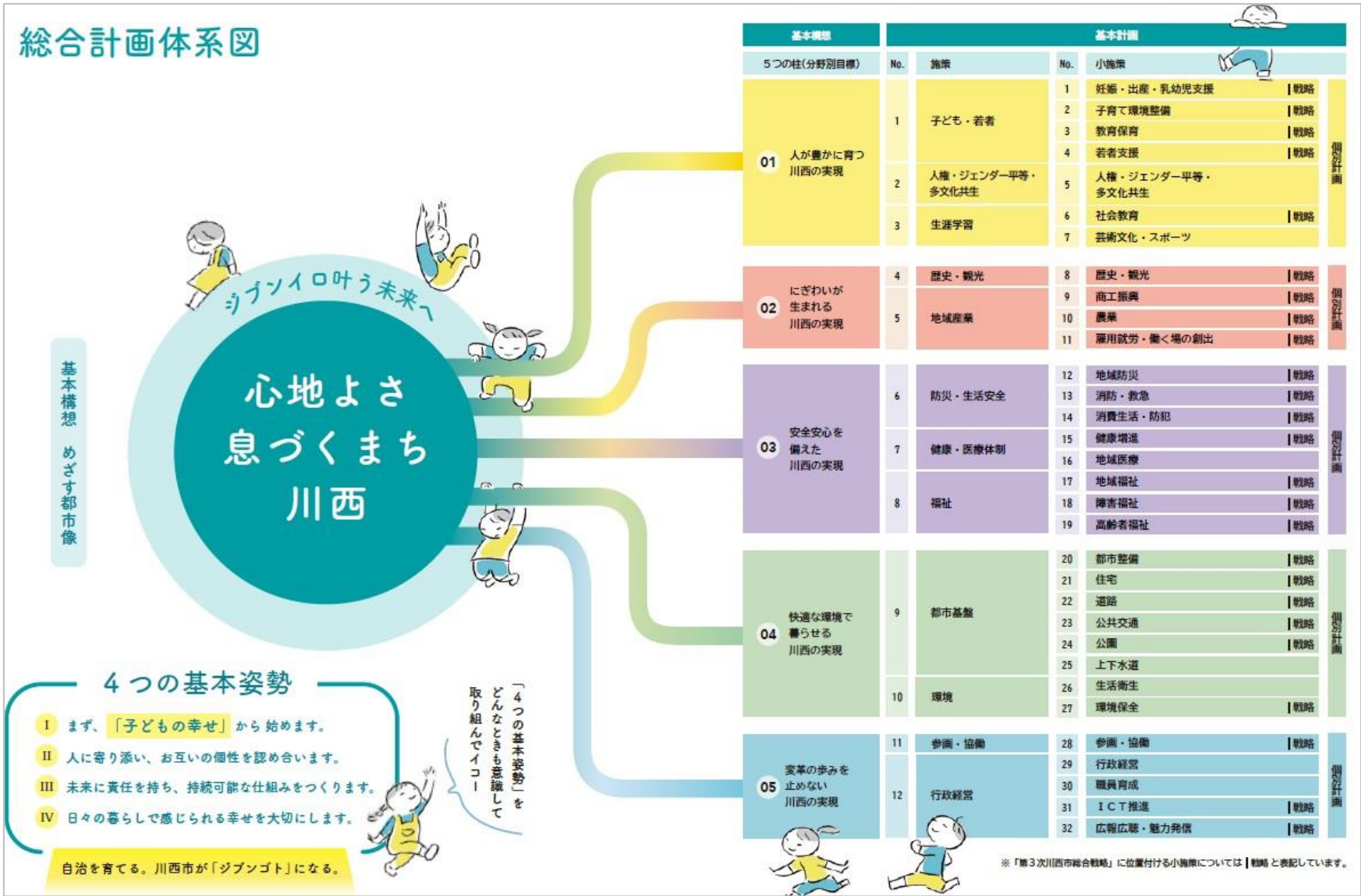
IV 日々の暮らしで感じられる幸せを 大切にします。

一人ひとりに安らげる居場所や充実した時間があることで、
このまちで過ごす時間がかけがえのない思い出になっていきます。

私たちは、「やってみたい」ことに自らチャレンジでき、
それを応援し合えるあたたかいまちをめざします。



全体的にやわらかい表現



パッと見ただけでわかる内容の表現

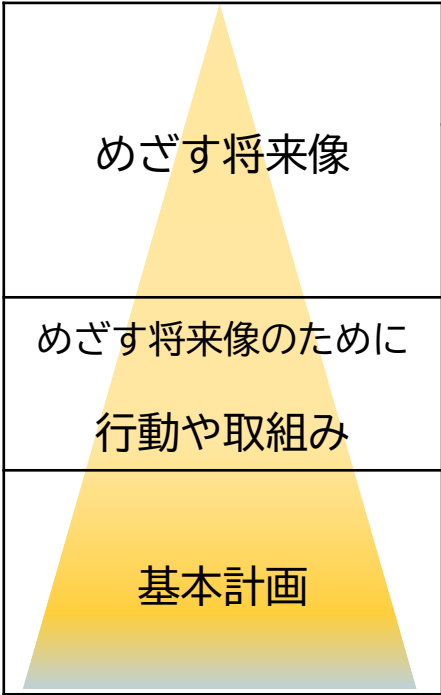
佐用町の次期総合計画

小さくても 少なくても
こころ豊かで幸せとおもえるまち
になるために

私たちは、
何をすればいいのか
何を大切にしていくなのか

みんなで考える

総合計画の全体像

 <div>めざす将来像</div>	将来像	小さくても 少なくても こころ豊かで しあわせと 思えるまち（仮）
	10年後の佐用町のために 大切にしていきたいこと	
めざす将来像のために 行動や取組み	私が、私たちができること ※みんなで取組むことを表現	
基本計画	行動や取り組みを 後押しする各種施策 （行政・団体・個人）	施策
<div><div>ポジティブなつながりを 楽しむまち</div><div>チャレンジを 応援できるまち</div><div>一人ひとりが主役に なれるまち</div><div>未来を考え 出来るところから始める</div><div>我がまちを誇りに思う</div></div> <div><div>楽しくつながる</div><div>やってみたいが叶う</div><div>みんなが主人公</div><div>身の丈にあった 見直し</div><div>さようが好き</div></div>		
縮充マインド		

総合計画の全体像

めざす将来像	将来像	小さくても 少なくても こころ豊かで しあわせと 思えるまち（仮）
	10年後の佐用町のために 大切にしていきたいこと	
めざす将来像のために 行動や取組を 基本計画	私が、私たちができること みんなが 行動や取組を 後押しする各施策 （行政・団体・個人）	
今回はこの部分を みなさんと話し合っていきましょう		
ポジティブなつながりを 楽しむまち	チャレンジを 応援できるまち	一人ひとりが主役に なれるまち
楽しくつながる	やってみたいが叶う	みんなが主人公
		未来を考え 出来るところから始める
		身の丈にあった 見直し
		我がまちを誇りに思う
		さようが好き
縮充マインド		